


日本史 B 問題

はじめに、これを読みなさい。

1. この問題用紙は 15 ページある。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか、受験票と照合して確認すること。
3. 監督者の指示にしたがい、解答用紙の氏名欄に氏名を記入すること。
4. 解答は、すべて解答用紙の所定欄にマークするか、または記入すること。所定欄以外のところには何も記入しないこと。
5. 問題に指定された数より多くマークしないこと。
6. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれも HB・黒)で記入すること。
7. 訂正する場合は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
8. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
9. 解答用紙はすべて回収する。持ち帰らず、必ず提出すること。ただし、この問題用紙は、必ず持ち帰ること。
10. 試験時間は 60 分である。
11. マーク記入例

| 良い例 | 悪い例 |
|-----|---|
| ● |  |

〔 I 〕 次の史料 A ・ B ・ C は、いずれも古代の法令である。これらを読んで、下記の設問に答えよ。解答は記述解答欄に記入せよ。

A 十二に曰く、国司・国造、百姓に斂ること勿れ。国に二の君非し。民に兩の主無し。^(ア)率土の兆民、王を以て主と為す。所任る官司は、皆是れ王の臣なり。何ぞ敢て公とともに百姓に賦め斂らむ。

B 其の二に曰く、初めて京師を修め、畿内国の司・・関塞・斥候・防人・駅馬・伝馬を置き、鈴契を造り、山河を定めよ。

C 凡そには、性識清廉にして、時の務に堪へたらむ者を取りて、大領、少領と為よ。強く幹く聡敏にして、書計に工ならむ者を、主政、主帳と為よ。其れ大領には外従八位上、少領には外従八位下に叙せよ。〈其れ大領、少領、才用同じくは、先づ国造を取れ。〉

(史料 A ・ B ・ C は、原漢文。〈 〉は条文の注)

設 問

- 1 史料 A と B は、それぞれどのような名称で呼ばれているか、漢字で記せ。
- 2 史料 A と B の出典は同じである。その出典名を漢字で記せ。
- 3 空欄には同じ語が入る。その語を漢字で記せ。
- 4 下線部(ア)の意味を簡潔に記せ。
- 5 下線部(イ)は、律令制下では五畿内となり、大和国・山背(山城)国・河内国のほかに、二国がある。その二国の名を漢字で記せ。
- 6 史料 C は、令義解の令文である。令義解が編集された理由を簡潔に記せ。

〔Ⅱ〕 中世の文芸と政治に関する次の文章A・Bを読み、下の設問に答えよ。解答はマーク解答欄に記入せよ。

A 鎌倉幕府が成立した後に院政を開始した は、幕府の勢力拡大という状況の中で朝廷政治の立て直しに積極的にとりくんだ。また彼は歌人としても優れ、朝廷に和歌所という組織を再興し、『新古今和歌集』の編纂を命じた。この和歌集は、それまでの作歌の伝統を継承しつつも、新たな技巧を駆使した和歌を収め、その編纂は、政治面での彼の意欲的な姿勢が文芸の面で反映したものと評価することができるだろう。

は、『新古今和歌集』の撰者の一人である藤原定家^(ア)を和歌の師とした人物である。彼は『万葉集』を学び、私家集『金槐和歌集』に自らの作歌を収めている。また彼は和歌を通じて との交流を深めており、鎌倉時代前期の公武関係という政治的問題に、和歌文芸が一定の役割をはたしていたことがうかがえる。

平安末期に活躍した歌人である西行が、もともと北面の武士^(イ)であったように、平安時代にも和歌に親しむ武士はいたが、鎌倉時代に入ってから、上に述べたような状況の影響もあって、和歌はしだいに武士社会の中での広がりを見せるようになった。

設 問

1 空欄 a にあてはまる人物として正しいものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- | | | |
|---------|---------|---------|
| ① 白河上皇 | ② 鳥羽上皇 | ③ 後白河上皇 |
| ④ 後鳥羽上皇 | ⑤ 後嵯峨上皇 | |

2 下線部(ア)に該当する人物として正しいものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 鴨長明 ② 栄西 ③ 藤原家隆
④ 慈円 ⑤ 卜部兼好

3 空欄 b にあてはまる人物に関する事柄として正しいものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 鎌倉幕府第二代将軍である。
② 甥にあたる人物に殺害された。
③ 源頼朝の孫にあたる。
④ 執権北条泰時が政治を補佐した。
⑤ 評定衆の設置を命じた。

4 下線部(イ)が置かれた直接の目的として正しいものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 内裏の警護をするため
② 荘園整理政策を遂行するため
③ 院御所の警護をするため
④ 東北地方の反乱を鎮圧するため
⑤ 九州北部の警固にあたるため

5 上記の文章に関連して、鎌倉時代に成立した書物として誤っているものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 神皇正統記 ② 平家物語 ③ 沙石集
④ 十六夜日記 ⑤ 元亨釈書

B 室町時代における和歌文芸の展開をめぐる重要な出来事として、連歌の隆盛をあげることができる。

和歌の上の句と下の句を複数の人々によって歌い継いでいく連歌は、すでに院政期頃には盛んになっていたが、鎌倉時代以降には、「二条河原落書」に「在々所々ノ歌連歌、点者(優劣の判定者)ニナラヌ人ゾナキ」と記されるほどの隆盛を見せた。そして、二条良基が編んだ『菟玖波集』が、連歌集として初めて勅撰に準じられたことを機に、連歌は和歌と対等の地位を認められるようになった。

連歌の隆盛にともない、連歌を詠み連歌会を営むことを職業とする連歌師があらわれるようになり、彼らは諸国を遍歴して、武士のみならず庶民の間にまで連歌を流行させた。

そのような連歌師の一人である c は、正風連歌とよばれる作風を確立し、都より文人を招いて和歌の講義を行なわせるなど中央の文化に強い関心をいっていた大内政弘の援助を得て『新撰菟玖波集』を編んでいる。

設問

6 下線部(ウ)が風刺の対象とした政権によって設置された機関として正しいものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 六波羅探題 ② 引付衆 ③ 雑訴決断所
④ 京都守護 ⑤ 問注所

7 下線部(エ)が成立した世紀の出来事として誤っているものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 南北朝の合一 ② 最初の半済令の発布
③ 明德の乱の勃発 ④ 勘合貿易の開始
⑤ 観応の擾乱の勃発

8 空欄cにあてはまる人物として正しいものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 一条兼良 ② 宗 祇 ③ 雪 舟
④ 夢窓疎石 ⑤ 村田珠光

9 下線部(オ)が本拠をおいた町として正しいものを、次の①～⑤のうちから選べ。

- ① 小田原 ② 堺 ③ 博 多
④ 山 口 ⑤ 鹿児島

10 上記の文章に関連して、室町時代の文化に関する文として正しいものを、次の①～⑤のうちから選べ。

- ① 北山文化を代表するものに、禅の精神をあらわした障壁画がある。
② 書院造の様式を持つ金閣は、北山文化の代表的建築物である。
③ 足利義満の保護を受けた世阿弥は、『風姿花伝』を著した。
④ 15世紀に、鎌倉公方足利持氏が足利学校を再興した。
⑤ 仏教の分野では、浄土真宗の日親の布教活動が見られた。

〔Ⅲ〕 近世の政治・経済・社会に関する次の文章A～Cを読み、設問に答えよ。解答はマーク解答欄に記入せよ。

A 江戸幕府の支配の体制は3代将軍家光の時に確立した。家光を継いだ子の家綱は1651年(慶安4)4月に11才で将軍になったので、幼少な家綱は叔父にあたる ・老中の松平信綱らの家門や譜代大名によって支えられた。戦乱の気風が鎮まり、平和が続くなかで政治課題となったのは、牢人や社会秩序を乱す無頼の徒「かぶき者」への対策であった。同年7月慶安事件がおこると、幕府は末期^(ア)養子の禁止を緩和し、大名の改易を減らし、牢人の増加を防ぐ一方、^(イ)「かぶき者」の取り締まりをいちだんと強化した。成人した家綱は、1663年(寛文3)5月武家諸法度を発布し、新たに の禁止を命じている。家綱が将軍であった時期の幕政は、武断政治から文治政治への転換期として捉えられている。

設 問

- 1 空欄aは会津藩主でもある。空欄aに入る人名として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。
① 前田綱紀 ② 池田光政 ③ 保科正之 ④ 堀田正俊
- 2 下線部(ア)には旗本奴と町奴がいる。のちに芝居の主役にもなった町奴の頭領の人名として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。
① 丸橋忠弥 ② 奈良屋茂左衛門
③ 幡随院長兵衛 ④ 戸次(別木)庄左衛門
- 3 下線部(イ)の同じ意味内容の語として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。
① 嫡子単独相続 ② 長子単独相続
③ 別家 ④ 急養子

4 空欄 b に入るべき語として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 殉死 ② 私の婚姻 ③ 居城修補 ④ 群飲佚遊

B 江戸時代、村ごとに作成された検地帳に登録されて年貢を負担する農民を本百姓というが、本百姓は、検地帳に登録された田畑屋敷に課された本年貢と、山野河海の利用や農業以外の副業にかかる 、石高に比例して課される付加税の高掛物を負担せねばならなかった。また、一国単位で河川や道路工事に徴発される国役や、街道筋の村々には宿場に人馬を出す などがあって、その負担は重かった。

設問

5 下線部(ウ)の説明として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 村中の田畑・屋敷を一区画ごとに丈量し、その持ち主や村の総耕地面積・石高などを確定した帳簿である。
- ② 農民ごとの田畑・屋敷の持高に応じて年貢負担額を明記した帳簿で、村役人によって作成される。
- ③ 江戸幕府が一村ごとの石高を掌握するために、それを郡単位で記載し、さらに一国単位にまとめて記載した帳簿である。
- ④ 村民一人一人の田畑・屋敷の面積や石高を書き上げ、年貢収納の便をよくするため作成された帳簿である。

6 空欄 c に入る語として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 公事 ② 小物成 ③ 地子 ④ 御用金

7 空欄 d に入る語として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 関銭 ② 運上金 ③ 助郷役 ④ 軍役

C 連年の飢饉に苦しむ人々を救済するため、1837年(天保8)2月、大坂町奉行の元与力で陽明学者の大塩平八郎が乱を起こした。この乱は鎮圧されたが、幕府の威信は著しく傷つけられた。このような社会情勢にあつて、12代家慶のもとで、老中水野忠邦による天保の改革が行われた。忠邦はまず、奢侈禁止令を出して風俗を厳しく取り締まった。それにより、歌舞伎の市川団十郎(7代)は江戸追放、戯作者の e らが処罰された。また、物価引き下げを命ずるとともに、物価高騰の原因を株仲間による流通統制にあると考えた忠邦は、1841年(天保12)12月株仲間解散令を出し、すべての問屋仲間の組織を解散させ、株仲間以外の商人による自由な取引を認め、江戸や大坂への物資流入を増大させて物価の引き下げをねらった。1843年(天保14)3月には人返しの法を出し、同年6月には上知令によって、江戸と大坂周辺の私領を幕領に編入しようとしたが、大名や旗本の反発にあい、忠邦が老中を罷免される一因となった。

設 問

8 下線部(エ)は乱を起こす以前、家塾で同僚の子弟や近在の富農に学を講じていた。その家塾を何というか。正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 適塾 ② 洗心洞 ③ 鳴滝塾 ④ 咸宜園

9 空欄eに入る人名として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 為永春水 ② 山東京伝 ③ 恋川春町 ④ 渡辺崋山

10 下線部(オ)に関連する説明として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 営業税を負担することを条件に、幕府・藩によって認められた営業の独占権を株というが、その株を持つ商人たちの仲間を株仲間といった。
- ② 享保の改革の時にも、幕府は諸物価の高騰をおさえるため、酒・醤油・塩などをあつかう商人の株仲間を解散させている。
- ③ この株仲間解散令の結果、商品流通はかえって混乱し、期待された効果もなく、10年後に株仲間は再興された。
- ④ この株仲間解散令が出された背景には、菱垣廻船積問屋仲間が上方市場からの商品流通を独占しているという判断があった。

[IV] 次の史料A・Bは、明治初年に欧米に派遣された使節団(以下、当該使節団と記す)に随行した久米邦武の手に成る記録の一部である。史料を読み、下の設問に答えよ。なお、史料は書き改めたところもある。解答はマーク解答欄に記入せよ。

A 明治四年辛未十月、^{ヨーロッパ} ^{アメリカ} 欧羅巴米利堅両洲の条約ありし和親の国々へ、特命全権公使の命を蒙りて、副使^(ア) 、大久保、伊藤、山口、さて又書記官また理事官・随行官の面々と支度をととのえ、来ル十一月に出港の新約克^{ニューヨーク}なる飛脚船会の飛脚船にて、太平洋^{こう}を航して、まづ^{アメリカ}亜米利加洲に渡るへしと定めたり〔中略〕公私の留学も随ひ^{ゆか}往んとて、同じ横浜^{たか}に集る^(イ)

(『久米邦武文書』)

B 我日本国の出品は、此会^(ウ)にて殊^{こと}に衆人より声誉を得たり、是^{これ}其一は欧洲と趣向を異にして、物品みな彼邦人の眼に珍異なるによる、其二は近傍の諸国に、みな出色の品少きによる、其三は近年日本の評判欧洲に高きによる、其内にて工産物は、陶器の誉れ高し〔中略〕場内へ出品の油絵、其最も多きは、^{オーストリア}奥地利と^オ日耳曼^{ゲルマン}の両国なり^(エ)

(『特命全権大使米欧回覧実記』)

設 問

1 下線部(ア)の「国々」として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① オランダ ② フランス ③ ロシア ④ トルコ

2 下線部(ア)に関連して、当該使節団が派遣される以前に締結された条約、ないし出来事の順序として正しいものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

- ① アヘン戦争—異国船打払令—安政五カ国条約—浦上教徒弾圧事件(第1次)
- ② アヘン戦争—異国船打払令—浦上教徒弾圧事件—安政五カ国条約(第1次)
- ③ アヘン戦争—浦上教徒弾圧事件—異国船打払令—安政五カ国条約(第1次)
- ④ 異国船打払令—アヘン戦争—安政五カ国条約—浦上教徒弾圧事件(第1次)
- ⑤ 異国船打払令—アヘン戦争—浦上教徒弾圧事件—安政五カ国条約(第1次)
- ⑥ 異国船打払令—浦上教徒弾圧事件—アヘン戦争—安政五カ国条約(第1次)

3 空欄にあてはまる人物の氏名として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 寺島宗則 ② 岩倉具視 ③ 大隈重信 ④ 木戸孝允

4 当該使節団の派遣中、いわゆる留守政府の内部で高まった征韓論に関する説明として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 留守政府は、西郷隆盛を朝鮮に派遣して開国をせまり、かつ朝鮮政府がこれを拒否した場合には武力行使も辞さないとする方針を内定した。
- ② 征韓論の背景には、明治新政府に不満をいだき、朝鮮への進出に期待をかける土族層をなだめ、彼らの矛先を海外に向けさせる狙いもあった。
- ③ 帰国した当該使節団一行のうち、大久保利通は征韓論に同調したものの反対姿勢をとる者も多く、政府内部が分裂、征韓派は下野した。
- ④ 1875年(明治8)の江華島事件をきっかけに日本政府は朝鮮に圧力をかけ、翌年に日朝修好条規を結んだ。

- 5 下線部(イ)に関連して、幕末～明治期における日本人の留学について誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。
- ① 幕府は、西洋の文化・技術を学ばせるため、榎本武揚・西周らをオランダに派遣した。
 - ② 幕末期、諸藩でも留学の動きはみられ、長州藩と薩摩藩はそれぞれイギリスへと留学生を送った。
 - ③ 当該使節団に同行した女子留学生のうち、最年少の津田梅子はのちに女子英学塾を創立した。
 - ④ 明治政府は、立憲国家における政治・法律の諸制度とその運営実態を調査させるため、伊藤博文らをアメリカに派遣した。
- 6 当該使節団の主な使命は不平等条約改正に向けた予備交渉にあったものの、ほとんど成果はあがらなかった。以後数十年をかけ条約改正交渉は一定の進展をみたが、その内容として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。
- ① 明治政府は1870年代後半、関税自主権の回復につきイギリスとの交渉にほぼ成功したが、アメリカ・ドイツなどの反対にあって無効となった。
 - ② 外務卿(のち外務大臣)の井上馨は、領事裁判権の撤廃と関税自主権の一部回復のかわりに、外国人裁判官の任用や内地雑居の案などを示した。
 - ③ 外務大臣の陸奥宗光は、日清戦争の開戦直前、領事裁判権の撤廃や相互対等の最恵国待遇などを中身とする日米通商航海条約の調印に成功した。
 - ④ 関税自主権の完全回復は1894年(明治27)に、領事裁判権の撤廃は1911年(明治44)に達成された。

7 下線部(ウ)は、明治政府が初めて公式参加した万国博覧会のことであるが、その開催地として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ウィーン ② パリ ③ シカゴ ④ ロンドン

8 下線部(エ)について、幕末～明治期の日本における陶磁器生産や輸出に関する説明として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 明治政府は工部美術学校を開設し、陶芸をはじめとする伝統美術の育成につとめた。
② 野々村仁清は上絵付法をもとに色絵を完成して九谷焼の祖となった。
③ 肥前藩主の鍋島直正は有田焼の専売を進め、藩財政の基盤強化をはかった。
④ ヨーロッパ印象派の画家は、葛飾北斎らの手に成る日本陶磁器の図柄に大きな影響を受けた。

9 下線部(オ)に関連して、日本における西洋絵画の受容ないし発展に尽くした人物として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 高橋由一 ② 小山内薫 ③ 浅井忠 ④ 青木繁

10 当該使節団の派遣などを通じ、明治政府は欧米諸国を目標とする急速な近代化政策を展開してゆくことになる。その指導にあたったお雇い外国人の名前と専門分野の組み合わせとして正しいものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

X コンドル(J. Condor)―医学 Y モース(E. Morse)―生物学

Z ダイアー(H. Dyer)―工学

- ① X―正 Y―正 Z―誤 ② X―正 Y―誤 Z―正
③ X―正 Y―誤 Z―誤 ④ X―誤 Y―正 Z―正
⑤ X―誤 Y―正 Z―誤 ⑥ X―誤 Y―誤 Z―正

〔V〕 現代のある政治家について述べた次の文章を読み、下の設問に答えよ。解答は記述解答欄に記入せよ。

戦前・戦後を通じての外交官・政治家として知られる は、1878年(明治11)東京に生まれ、生後間もなく横浜の実業家の養子となった。のちに大久保利通の子であり、昭和天皇の内大臣もつとめた の女婿となる。東京帝国大学卒業後、1906年に外務省に入省、天津総領事・奉天総領事などを務めた後、 の田中義一内閣と の浜口雄幸内閣の際の外務次官となった。1936年(昭和11)、駐英大使となり、日独接近には批判的な態度をとった。1938年に退官し、アジア太平洋戦争中は、軍部からは親英米・反枢軸論者とみなされ、1945年4月には憲兵隊に逮捕されたこともある。

戦後、 は、東久邇稔彦内閣とそれに次ぐ 内閣の外務大臣をつとめた。その後、組閣中にGHQの指令で公職追放された に代わって第1次内閣を組織するとともに、 の総裁となった。そして、片山哲内閣・ 内閣をはさみ、通算5次にわたって政権を担当し、戦後保守政治の基本路線を確立した。

は、第2次内閣(1948年10月～49年2月)の時、日本経済自立のために予算の均衡や徴税の強化などをおもな内容とする の実施をGHQから指示された。第3次内閣(1949年2月～52年10月)の時には、マッカーサーの要請のもとに定員7万5,000名におよぶ を発足させた。また、サンフランシスコ講和会議に首席全権として出席して平和条約に調印するとともに日米安全保障条約をアメリカ合衆国との間に結んだ。

また は、官僚出身の「保守本流」政治家を育てたことでも知られる。1967年に死去した際、戦後初めての国葬を営んだ内閣の総理大臣・佐藤栄作もその一人であった。

設 問

- 1 空欄 a・b・e・f・h にあてはまる人名(フルネーム)を漢字で記せ。
- 2 空欄 c・d・g にあてはまる政党名(正式名称)を漢字で記せ。
- 3 空欄 i・j にあてはまる語を漢字で記せ。